



カフエバザール

2013

地域の居場所づくりにご理解とご協力をお願いします。

5月25日 11:00~16:00 (土)

よりあいの森
いちにちカフェにて
福岡市城南区別府7丁目9の21



雑貨、日用品、新品衣類、古着など
掘り出し物がたくさん！



お食事、コーヒー、スイーツ！
ご用意しています。



手作りのジャム、クッキー、漬物、
塩麴、高齢者・障害者福祉施設の
運営資金づくりにご協力ください。



パズール品の提供をお願い
したいで、ござる。

よりあいの森まで、お届けいただくと助かります。

お問合せ

よりあいの森をつくる会

電話 092-845-0200



いつもお世話になっています。

**今年もいちにちカフェのイベントを行うこととなりました。
みなさまのお越しをお待ちしています。**

宅老所よりあい 代表 村瀬 孝生
よりあいの森をつくる会

会長 大坪 克也

宅老所よりあい

1991年、福岡市中央区地行にある伝照寺のお茶室を借りてはじまりました。大場ノブヲさんという92歳で一人暮らしをしていた女性の居場所を創ることがきっかけでした。

当時は痴呆症（認知症）を抱えたお年寄りたちは行き場がありませんでした。既存のデイサービスは対応できないことを理由に利用を断れることが多く、当事者はもちろん、その家族も仕事を辞めて24時間365日、痴呆症のある親や親族を抱え込み孤立しながら介護せざるを得ない状況にありました。

そういった社会のありようを背景に宅老所は痴呆症を抱えたお年寄りたちの居場所、または痴呆症の親を介護する家族の拠点として運営されてきました。現在は中央区地行、南区桧原、城南区別府の3か所で介護保険の指定事業所（デイサービス）として運営しています。

よりあいの森をつくる会

社会はせちがらく、きびしくなってきました。都会の片隅で、ひとりぼっちで逝ってしまう孤立死がめずらしくない時代です。ぼけや障害を抱えても安心して老いていくにはどうしたらよいのかをみんなで考えました。私たちは、よりあいの森を創ることにしました。

老いれば、人の手を借りて生きざるを得ません。周りの人たちは手を貸さざるを得ません。そうやって介護は始まります。どうせ介護せざる、されざるを得ないなら、どちらも、もっと気楽でありたいと思います。

そして、苦しみや悲しみを分かち合う仲間が欲しいものです。介護すること、されることで人とつながることができると思いを逆転したいと考えました。

何かあったら、飛んできてくれる。さりげなく手を貸してくれる。何気なく見守ってくれる。そんな、関係が育まれる拠り所が必要です。その思いを実現するために、有志と宅老所よりあいが協力して「よりあいの森」を創ることにしました。老いた人、幼い子どもとお母さん、障害を抱えた人たちも、誰もが社会の一員である「よりどころ」をつくりましょう。

「つどう、もちよる、わかちあう」。このことがごく当たり前であるような「よりどころ」が育まれることを望んでいます。

終の棲家

全国で42万人が特養の入居待機者です。そのうち在宅待機者が4割弱と言われています。自宅での生活が難しくなった人たちのための「住まい」が必要です。よりあいの森の中に小規模な老人ホームをつくる計画しています。地域社会のよりどころとして、いちにちカフェを運営し、そこにつながる老人ホームをイメージしています。

入居してしまうと社会から隔絶される住まいではなく、家族や友人たちとの関係が継続される住まいを目指します。

今回のカフェバザールはその資金づくりの一環です。みなさまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

バザール品の提供にご協力ください！

雑貨、陶器、タオル、シーツ、衣類など、新品もしくはまだまだ使える品物を期待しています。ケーキやクッキーなど、趣味を生かした手作り品也大歓迎！
よろしくお願いします。

